

# 第5次塩竈市長期総合計画進捗報告会 議事録

## 1 日時・場所

平成 26 年 2 月 8 日（土）10:00～12:45 於 ふれあいエスパ塩竈 エスパホール

## 2 出席者

長期総合計画策定時の審議委員（8名）、市民懇談会委員（11名）、一般（1名）、市議会議員（4名）、市長、副市長、部局長（8名）、（計 34名）

## 3 概要

### (1) 開 会

### (2) 市長挨拶

### (3) 平成 25 年度主要事業の取り組み状況等について（報告・評価）

- ① 各部の主要事業の取り組み状況等を報告し、1 件ごとに委員 16 名から 5 点満点で採点いただいた。

○ 採点結果

- 平均点数 4.06
- 各委員から評価の高い事業
  - ◇ 市立病院における医療の提供 4.69
  - ◇ 一流アスリート誘致先導事業 4.56
  - ◇ 待機児童ゼロ推進事業 4.38
- 詳細は別ファイル「採点結果一覧」を参照のこと。

- ② 編ごとに委員から意見聴取した。

主な意見交換内容は次項（項目 4）のとおり

### (4) 塩竈市震災復興計画の主要な事業の状況等について

震災復興推進局長から、復興事業の状況について報告した。

### (5) 閉 会

## 4 委員との意見交換内容

### (1) 「第 1 編 だれもが安心して暮らせるまち」について

- ① 報告 No.1（待機児童ゼロ推進事業）について

◆ （質問）保育士何名を目指しているのか。

→（健康福祉部長）全体で 70 名（現在と同規模）を継続的に確保し続けることを目指している。

② 報告 No.3（認知症高齢者見守り事業）について

- ◆（意見）認知症サポーターは養成講座により市民に浸透してきた。この人たちを活かすことがこれからの課題ではないか。そのために市が、市民の方向性を見本を示す機会を設けてはどうか。
  - （健康福祉部長）これまでは「サポーター数を増やす」ことに重きを置いてきた。今後は継続的に講習の機会を確保するとともに、将来的に受講者をうまく組織化できるような取り組みも併せて考えていかなければならない。
- ◆（意見）認知症患者が増加傾向にあるなかで、事業費が少ないのではないかと。もっとウェイトを置くべきではないか。
  - （健康福祉部長）掲載している事業費は人件費をカウントしていない。平成 27 年度から始まる国の介護保険事業計画のもと、市の計画でもメニューに取り入れ、必要な費用をかけていく。
- ◆（質問）養成講座について、i)受講者の年齢制限はあるのか、ii)どのような立場の人を集めて講座を開いているのか、iii)受講者はどのような形で認知症患者のいる各家庭に入り活動しているのか、iv)受講した店舗でのステッカー掲示は実施されているのか。
  - （健康福祉部長）i)年齢制限は無い。ii)平成 25 年度の 2 回の講座開催はいずれも企業からの依頼により実施した出前講座である。iii)養成講座受講＝公的資格取得という性質のものではなく、認知症に対する理解を深め、早期発見のきっかけ作りをすることを目的とし、DVD を見たり、身近な患者への対応の仕方について聴講する内容の講座である。iv)ステッカーは受講した店舗へ既に配布している。

③ 報告 No.4（市立病院における医療の提供）について

- ◆（意見）在宅診療支援施設は近隣（2市3町）の開業医との協力が欠かせないと思うが、どのようになっているか。
  - （病院事務部長）開業医との連携は行っている。市立病院が在宅医療を提供する患者は、もともと市立病院にかかっていた患者の他に、開業医にかかっていた患者も多くいる。
- ◆（質問）ショートステイについて。
  - （病院事務部長）市立病院は療養病床を持っていて、毎日 15 人程度の利用がある。市立病院以外の患者も利用している。

④ 報告 No.5（宅地防災対策支援事業）について

- ◆（意見）通常のライフライン工事と復旧工事との線引きは難しいが、もっと重点的に取り組んでほしい。
  - （建設部長）ライフラインである上下水道施設は、復旧工事に付帯して工事が必要になる場合がある。当初はこの工事費用は支援対象外としていたが、平成 25 年度からこの費用も支援対象としている。

## (2) 「第2編 海・港と歴史を活かすまち」について

### ① 報告 No.7 (魚市場運営事業) について

- ◆ (意見) 前浜物(サバ)は保存の仕方が難しい。塩竈の港で保存上の問題は無いのか。

→ (産業環境部長) 塩竈の魚市場はマグロ・ツボダイをふたつの柱としているが、これだけでは新魚市場を十分に活用できないという考えがある。また漁港の背後地には凍結施設をもつ冷蔵庫を現在よりも大容量になるよう整備する予定であるので、凍結して保管しようと考えている。

- ◆ (質問) 魚市場の従業員にはマイナスイメージがある。市の職員は何人いて、どのような研修をしているのか。

→ (産業環境部長) 魚市場の開設者は市であるので、施設管理・給水等の市場管理業務を6名(正職員3名、臨時職員3名)で行っている。魚市場には物流業者等も多数関わっている。市の職員に対しては教育指導を行っていききたい。なお、マイナスイメージはどの従業員に対するものなのかを詳しく知りたい。

### ② 報告 No.8 (商店活性化促進事業) について

- ◆ (質問) SNSをどう活用するのか。また、SNSは更新者が固定してしまうという問題があるものである。どう推進していくのか。

→ (産業環境部長) 月に2回開催する商人塾で、相談しながら更新の頻度を高める工夫をしているようだ。通信販売ではなく、商店街への来客を促すための取り組みである。

→ (質問者) 次年度での報告を楽しみにしている。

### ③ 報告 No.9 (仙台・宮城 DC 参画事業) について

- ◆ (意見) ガイド無しで訪れる観光客向けのボランティアガイドの提供施設が縮小傾向にある。

→ (産業環境部長) ボランティアガイドの募集を行うとともに、亀井邸の管理委託職員も活用し、ガイドを提供する仕組み作りを強化する。

- ◆ (意見) 塩竈の土産物をまとめて買える場所がほしい。たとえば、多くの日本の有名神社には、参道脇に店が並んでいる。

→ (産業環境部長) まちの駅、マリゲート、仲卸市場にある。今後、海岸通1・2番地区と魚市場内に土産物・物販の区画を作りたいと考えている。

- ◆ (意見) マリゲートは船の利用客が一時だけ滞在する場所である。短時間でより多くの客に買い物をしてもらえるような工夫がほしい。

→ (産業環境部長) バスツアーの空き時間では買物がしづらい状況である。マリゲートではテナント会を作って、観光業者に対して「観光客一人いくら」というような観光計画を立てて積極的に働きかけているところである。

#### ④ 報告 No.10（離島航路事業）について

◆（質問）今後の浦戸の復興についてどう考えているのか。

→（政策課長）浦戸については、離島航路の問題をはじめ、浅海漁業、高齢化、土地活用等、さまざまな問題がある。一つの課で対応できるものではないため、市役所内にプロジェクトチームを立ち上げて問題に取り組んでいるところである。具体的には、i)災害公営住宅の建設に合わせ、新たな人が住めるような土地活用ができるよう規制を緩和しようとしている。ii)旧第一・第二小学校の校舎を研修施設に改修し、トライアル漁業従事者用、あるいは、拠点が都会にある人の「ちょっと暮らし」の場所として提供できるようにする取組をしている。iii)次の高齢化計画の中で浦戸に在宅支援センターを設ける計画である。浦戸の魅力を発信し、定住人口増加につながる施策を考え、総合的な取り組みをしていく。

◆（意見）浦戸・塩竈の振興という観点から、人が住めるような施策を実施してほしい。

→（政策課長）次年度の事業報告で評価をいただけるよう注力する。

#### (3) 「第3編 夢と誇りを創るまち」について

##### ① 報告 No.13（（仮称）杉村惇美術館整備事業）について

◆（質問）作品はどのように収集するのか。遺族の協力は得るのか。

→（教育部長）美術館は常設展示部分と企画展示部分のふたつに区分する予定である。現在、市に40点ほどの絵画が寄贈されていて、市内各所に展示している。この中から常設展示へ展示する作品を抽出する。東京にいる息子さんの協力も頂くので、今後、40点を超えて幅広い展示が期待できるものと考えている。

◆（意見）杉村氏以外にも、歴史ある美術展に優秀な作品を多く出品している人たちの展示も検討してほしい。

→（教育部長）企画展示の管理運営計画にこの意見を組み込んでいきたい。

#### (4) その他

##### ① 取組状況を報告する資料内容について

◆（意見）前年度からの継続事業については前年度の状況も掲載してほしい。策対比をし、分析し、第6次計画につながるよう、前年の議論を記録に残してほしい。

## 5 講評

### (1) 大滝教授からの講評

#### ① 全体の印象について

- ◆ 復興が着実に前に進んでいると感じた。観光客入込数、水揚げ、魚市場整備状況等を見てみると、産業経済の復興も力強く動き始めているという印象を持っている。今後も続けていってほしい。

#### ② 資料について

- ◆ 何がどこまで進んでいるのかがわかるような事業報告の仕方をしてほしい（わかる事業もあったが、事業内容の説明しか無かった事業もあった）。
- ◆ 報告された 15 事業以外の事業についての進捗がわからない。  
第 5 次長期総合計画が全体としてどう動いているのかがわかるようにしてほしい。毎年指標が入手できるような事業は、各事業の「何がどこまで進んでいるか」を、「第 5 次塩竈市長期総合計画の全体構成」に沿って、簡単で構わないので、可能な限り評価する努力をしてほしい（たとえば進捗を「青信号、黄信号、赤信号」で評価する等）。

#### ③ まちづくりの目標 1 「だれもが安心して暮らせるまち」について

- ◆ いろいろな復興の営みが進んでいるという印象を持った。

#### ④ まちづくりの目標 2 「海・港と歴史を活かすまち」について

- ◆ 魚市場の問題、観光客の入込は着実に進んでいると感じた。さらにこの取り組みを前へ進めてほしい。
- ◆ 新魚市場の整備について
  - これからさまざまな取り組みを企画している中で、魚市場を中心として、水産業・水産加工の産業そのものを構造改革していくことが重要である（水揚げに一喜一憂するのではなく）。
  - 水産関係者も、新魚市場建設を契機に変えられるところは変えようという決意を、ぶれずに追及してほしい。
  - 他市町（石巻市、気仙沼市等）でも相次いで魚市場の建設が進んでいて、抜本的な取り組みを行う努力がされている：観光との結び付き、新しいブランドを作る取組、水産関係者の結束、新しいサプライチェーン、場合によっては世界へ眼を向ける等。
- ◆ DC、観光について
  - 観光客入込数は震災前の状況に戻っているということなので、取組を強化して続けてほしい。
  - 6 月からは山形県の DC、平成 27 年 3 月には国連防災世界会議が仙台で開催される予定であり、世界中から 5,000 人くらいの人が集まることになっている。これは塩竈にとって大きなチャンスであるので、世界に向かった取組をしてほしい。
- ◆ 水産と観光は表裏一体のものと考え、水産・観光・商業の三位一体で産業経済の復興を成し遂げていってほしい。

## (2) 斎藤教授からの講評

### ① 長期総合計画について

- ◆ 震災から3年目となり、長期総合計画が着々と進んでいる。計画の枠組みそのものは震災の中でも有効で、進めていくことが重要であることが確認された。自信を持って進めていくことが塩竈の発展にとって欠くべからざることであると感じた。
- ◆ 復興計画と長期総合計画の重複がでてきているだろう。3年目であるということもあり、精査して、二重行政にならないよう、見直し・再編が必要になってきているという感じを持った。

### ② まちづくりの目標1「だれもが安心して暮らせるまち」について

- ◆ 基本中の基本であるので、着々と進めていて成果も表れている。力強く進めていくということでよいと思う。

### ③ まちづくりの目標2「海・港と歴史を活かすまち」について

- ◆ 今後の塩竈の賑わいづくりと活性化のひとつのポイントになると思う。魚市場が市の活性化の切り札となる事業であると思う。新しい施設も作られつつあるので大いに期待したい。
- ◆ 新魚市場の整備について
  - 魚市場・仲卸市場一体としての新しい計画は、管理運営や担い手・業者の利害関係の調整だけではなく、将来的に賑わいの拠点としていくために、利用者・客の目線からの声をどれだけ取り込んでいけるのかが重要なポイントになる。難しいとはいえ、より多くの声を反映して取り込んでいくことが併せて必要ではないか。
  - 観光客への対応としてスタジオ等さまざまな計画が盛り込んであるとのことなので、力強く進めて、観光客・市民が楽しみを目的に行ってみたくするような施設を造る、ないしは活用できるよう考える、ということをお願いしたい。
- ◆ 商店街活性化について
  - 観光客・一般の人の目線からの見直しが必要であると思う。

### ④ まちづくりの目標3「夢と誇りを創るまち」について

- ◆ 学力向上対策事業について
  - 小中学生の学力調査の結果は数値として目に見えるだけに厳しいものがある。
  - さまざまな立場の関係者がいて、数値を向上させることは容易ではないが、注力して向上させてほしい。
  - 放置すると悪いイメージになり、子供たちの学習の場を市外に求めていく親が出てきて人口流出という問題につながる。これを食い止めなければならない。この努力に期待したい。

◆ (仮称) 杉村惇美術館整備事業について

- 杉村惇美術館構想計画は長期総合計画に無いが、歴史的・文化的に価値のある公民館の建物そのものも保全しながら美術館も作っていくという合わせ技で期待したい。
- 建物の建設後の管理運営方法に留意が必要である。指定管理者制度が増えているが、杉村氏の価値を常時発信し続ける機能を持たせるためには研究員・学芸員を置くような対応などが無いと、死んだような施設になってしまう。
- 塩竈の歴史・文化を発信する拠点として発信力を高めるような場にするためには、常勤に限らずいろいろな人の市民力を結集できる仕組み作りを考えられたらよいと考えた。

⑤ 経済的には魚市場、文化的には美術館、というふたつの施設がポイントとなる。このふたつをきちんと活用すると、塩竈は観光の目玉が充実すると感じた。